

## 【事例 H27-06-03】千葉県八街市

### 不登校・いじめ問題・家庭内暴力・発達障害等相談事業 ～関わる、つながる、育てる～

教育支援センター「ナチュラル」において、市カウンセラー及び学校相談員が児童・生徒の不登校、不適應、いじめ問題や発達における諸問題についての相談活動や学習、調理体験活動を行っている。また、小・中学校の児童・生徒及び保護者、学校の教諭等について、いじめ、不登校、不適應、学業、子供の教育、精神的不安等について、電話相談を行い心の安定を図っている。

【実施主体】千葉県八街市

【大綱の分類】6. 社会的な取組で自殺を防ぐ①

【事業予算】平成26年度 200千円（200千円）

【利点】

▼問題を抱えた相談者が、リアルタイムに相談員に話すことで、その後の方向性が見えたり、相談時の気持ちを受け止めたり、一緒に解決法を考えることができる。

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

八街市の不登校率は、他市町と比べて高く、平成25年度小学校では、県平均0.34%に比べ市平均1.0%で、中学校では、県平均2.51%に比べ5.59%であった。引きこもりから自殺者が出ないように措置を執らなくてはならない。八街市は、問題を抱える家庭が多く、相談する場所もわからないことも多い。市の広報紙やホームページ等で広く周知することで、相談者が増え、多くの関わりも増える。

【計画を立てる上での工夫・等】

必要に応じて関係諸機関に繋げる等支援連携を行う。その他市カウンセラーが案件を引き続いて、来所しての面接につなぐことができる。

【具体的な内容・実施の過程】

様々な原因で、学校生活に不適應を起し、不登校等になった児童・生徒に対し、個々に応じた指導、支援を行っている。また、小集団での様々な活動を通して、情緒の安定及び適應を図る。

さらに、学校との連携により学校復帰を目指す。

義務教育終了後の継続支援にかかる進路相談会「未来の扉を開こう」を年1回開催し生徒・保護者・中学校の教諭が参加した。

小・中学校の児童・生徒及び保護者、学校の教諭等について、いじめ、不登校、不適應、学業、子供の教育、精神的不安等について、八街市教育支援センター「ナチュラル」において電話相談を行い心の安定を図る。

【成果】

カウンセラー及び学校相談員の相談件数は、294 件であった。小学校、中学校の直属の教職員とは異なる立場であることから、気を許してもらえするというメリットと改善されないと教育委員会の中での共通理解となることから、保護者に問題意識を持たせられる。

【課 題】

電話相談から来所しての面談となるケースが多く、専門に行う者の配置が必要である。

【事業種別】 対面型相談支援事業 電話相談支援事業

【準備期間・人数】 随時 5名

【予防段階】 0次予防 1次予防

【自治体規模】 28年度 72,406人 財政規模 不明

【自治体負担率】 1／3 千葉県地域自殺対策強化事業費補助金利用

【事業対象】 児童・生徒

【支援対象】 児童・生徒

【実施主体・問合せ先】 八街市教育委員会 学校教育課

TEL 043-443-1446

E-mail: gakkyo@city.yachimata.lg.jp